

TBGU
医療福祉学部
×
日本ALS協会

東北文化学園大学 学園祭で コミュニケーション体験をしよう！

ALS 当事者とコミュニケーション体験会 + 武本花奈 写真展

ALSとは

ALS（筋委縮性側索硬化症）は、全身の筋肉が徐々に衰えていく難病とされ、いまだ治療は見つかっていません。日本では毎年、数百人が罹患、現在およそ9千人がその難病と闘っています。人工呼吸器装着、運動神経障害等の進行等によるコミュニケーション障害は当事者にとって最大の苦痛です。

ALS等の難病患者は、呼吸器の装着により発話によるコミュニケーションが難しくなります。でも、本当は目の前にいる人に直接挨拶をしたい気持ちをぐっとこらえています。パソコン等の機械を介したコミュニケーション方法はもちろん大切ですが、ある一定の方法さえマスターすれば機器を用いずともコミュニケーションをとることが可能です。また、この方法はALS等の難病患者に限らず多くの疾患に応用できると言われています。是非、この機会に“電子機器やIT機器を用いないコミュニケーション方法”を学んでみませんか？当日はALS当事者の方が講師として参加、直接コミュニケーション体験ができます。現在は理学療法士としてバリバリ臨床で働く元学生ヘルパーも講師として参加します！

— 知って、感じて、使ってみませんか？ ALS 当事者と“電子機器やIT機器によらないコミュニケーション”体験会 —

司会【東北文化学園大学 桂理江子 / 日本ALS協会 本間里美】

◆開会の言葉【日本ALS協会 コミュニケーション支援委員長 深瀬和文】

◆ 知ってほしい、ALSとコミュニケーション（13:00～13:35）

- ・ALSと電子機器やIT機器によらないコミュニケーション方法について
- ・私を支えるコミュニケーション

【日本ALS協会 宮城県支部 副支部長 長房利明】

- ・医療者に必要なコミュニケーションを学んだ機会を振り返る

【東京湾岸リハビリテーション病院 理学療法士 伊藤菜緒（元学生ヘルパー 東北文化学園大学卒業生）】

◆ 体験しよう、あかさたな法・文字盤・口文字（13:35～14:20）

当事者講師との体験を通して、電子機器やIT機器によらないコミュニケーションを学べます。

◆ 理解しよう、コミュニケーションの重要性（14:20～15:00）

当事者、元学生ヘルパー、医療者とのトークイベント。会話が伝わる喜び、理解する喜びに触られます。

◆閉会の言葉【日本ALS協会 宮城県支部 支部長 長尾有太郎】

日にち	2018年10月21日（日）	
時間	13:00～15:00（12:30受付開始）	
会場	東北文化学園大学 1号館 階段教室1	
住所	〒981-8551 宮城県仙台市青葉区国見 6-45-1	
対象	高校生・大学生・教職員・一般	
内容	ALS当事者による「あかさたな法・文字盤・口文字」体験会	
主催	一般社団法人日本ALS協会	
共催	東北文化学園大学・日本ALS協会宮城県支部	
参加費	無料	
申込み	不要	
定員	250名（車椅子の方は事前に下記までご連絡ください）	
問合せ	日本ALS協会 コミュニケーション支援委員 橋本・本間 E-mail: als.komyu@gmail.com	

— 武本 花奈 写真展 THIS IS ALS —

本展では、十数名のALS患者さんたちの写真と言葉を展示しています。時間をかけ、パソコンの視線入力装置や、透明文字盤などを使い教えてくれた貴重な声です。1日1日、動かなくなる身体を受け止め、真剣に生きている人たちの思いを感じてください。あなたの胸に響くメッセージがきっとあると思っています。1日でも早く、ALSが治る病気になることを祈って、彼らのまっすぐな思いを届けます。

日時 2018年10月20日（土）～21日（日）※文化学園祭2018開催期間中
場所 東北文化学園大学 3号館2階 評価実習室2 廊下



武本花奈（HANA TAKEMOTO）
埼玉県熊谷市生まれ。都内コマーシャルフォトスタジオに勤務後、独立。主にコマーシャル・書籍カバーなどの撮影を中心に活動、講師業もこなしている。2014年より、ALSに苦しむ人々の撮影を続けている。
関連書籍「閉じ込められた僕」藤元健二著・「孤独は消せる」吉藤健太郎著

